

「移動」を「エコ」に。

smart move



未来が変わる。
日本が変わる。
25

地球にやさしい“移動”に チャレンジ!

通勤・通学・買い物・旅行など、私たちは毎日どこかへ出かけます。
そんな日々の「移動」を「エコ」にする新しいライフスタイルを提案します。

日本の目標である温室効果ガス排出量25%削減を達成するには、日々の生活での行動の見直しが欠かせません。特に「移動」に伴うCO₂排出量は生活分野全体の3割を占めており、「移動」を見直すことは大きな意味があります。そこで賢い移動、CO₂排出の少ない移動にチャレンジし、地球温暖化防止につなげよう。そんな発想で誕生した活動が「smart move」です。「smart move」はCO₂削減にとどまらず、「健康」、「快適」などにも役立つ新しいライフスタイル。その取り組みがすでに各地で始まっています。

smart move 3つの効用

- 環境にいい
CO₂をグッと抑え
地球にやさしい
- カラダにいい
健康的で
楽しみや仲間も増える
- 快適・便利
意外と速くて
快適・便利の発見

smart move が提案する

5つの取り組み

すでに各地で始まっている
具体的な事例紹介



公共交通機関を利用しよう (電車、バス等の公共交通機関の利用)

▶▶人と環境に優しい省エネ車両を続々導入



小田急電鉄は運転用電力量の削減を目指し、VVVFインバーター制御装置や回生ブレーキの導入、車体の軽量化などを施した省エネ車両の導入を進めている。中でも2007年から導入を始めた4000形車両では、従来に比べ電力消費量を46.8%削減させた。現状での導入率は09年度末で87.7%。12年度までに95%以上の達成を目指している。

阪急電鉄も省エネ車両の配備を推進。将来的にVVVFインバーター制御の9300系車両に統一を図る計画だ。また今月17日には、前照灯を除くすべての照明をLED化、高い省エネ性と照明の長寿命化による廃棄物削減を両立させた新車両を導入。これをアピールする環境メッセージ列車として「未来のあかり号」を来年3月まで運行する。

このほか東急電鉄も電力回生ブレーキなどの省エネ機能や騒音低減、バリアフリー対策を施した5000系車両の導入を推進中だ。



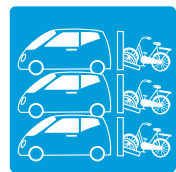
自転車、徒歩を見直そう (自転車、徒歩での移動の推奨)

▶▶高まるバイコロジー運動、各地でイベントも

日本自転車普及協会は、自転車を安全かつ快適に利用できる環境づくりを進める「バイコロジー運動」を展開。全国41の組織・団体と連携し各地で自転車普及のためのイベントを実施している。一方、交通規則の順守や運転マナーなどの面で課題も浮上してきたことから、乗り手が守るべき10カ条を盛り込んだ「自転車市民権宣言」を提言。賛同署名活動やセミナー開催なども併せて行っている。

名古屋では今年4月、市庁内に「自転車利用課」を新設、自転車の走行環境整備に本腰を入れている。09年度から試行しているコミュニティサイクル事業「名チャリ」も、本格的な事業化に向けて新たにICカードシステムを採用。都心部に30カ所のステーションを設置し、300台のコミュニティサイクルを使った社会実験を実施した。

京都市でも趣のある京都の町並みを安心・快適に歩けるよう、その行動規範となる「歩くまち・京都」憲章を制定。脱クルマ、人と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」づくりを進めている。



地域や企業の移動・交通におけるCO₂削減の取り組みに参加しよう (カーシェアリング、コミュニティサイクル等の利用促進)

▶▶カーシェアリングで車利用を効率的に

従来のカーシェアリングは1台を複数の会員で利用する仕組み。これに対して、オリックス自動車では複数のクルマを多数の人で共同利用する独自のカーシェアリングを展開している。公共交通との連携を重視しているのも特徴で、長距離移動は電車などで移動し、目的地付近からカーシェアリングを利用するというスタイルを推奨している。

JTB首都圏は、さいたま市、日本自転車普及協会との共同事業でコミュニティサイクルの社会実験をこの秋実施した。さいたま市内に複数の自転車貸し出し拠点(サイクルポート)を設置し、そこで自転車の貸し出し、返却が自由にできる仕組み。普通のレンタサイクル同様に利用できる便利さもあって、多くの利用者から高い評価を受けた。

Jリーグの清水エスパルスではスタジアム近隣の渋滞緩和、CO₂削減を進めるため、指定駐車場そばにシャトルバスのバス停を設置し、パーク&バスライドを推奨している。

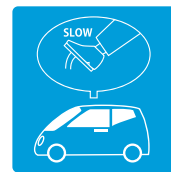


長距離移動を工夫しよう (エコ旅行やレール&レンタカー等の実施)

▶▶空の旅でカーボンオフセットに参加

全日空では、利用者とともに実施する環境貢献活動の一環として、「ANAカーボン・オフセットプログラム」を実施している。これは、音楽家の坂本龍一氏を発起人とする自然保護団体「more trees」との提携プログラム。国内線利用の際に排出されるCO₂のうち、利用者個人の排出量を算出、クレジットカード方式によりオフセット(相殺)を行うことができる。パソコンや携帯電話からも参加でき、支払ったオフセット料金は森林再生プロジェクトに活用される。地球温暖化防止に個人として手軽に参加できる仕組みだ。

JTBグループが全国で展開しているecoバイク「旅チャリ」は、観光振興と環境配慮、健康増進などを目的に貸し出している「電動アシスト付き自転車」。全国25の都道府県の観光地はもちろんハワイやオーストラリアなどにも貸出場所が設置され、旅先での観光やビジネスに活用されるなど、さまざまなシーンで活躍している。



自動車の利用を工夫しよう (エコドライブの推奨、エコカーへの乗り換え)

▶▶4つの走行パターンに合わせた運転を

CO₂の主要発生源とされる自動車も、エコドライブの励行やエコカーへの乗り換えで大幅に排出量を削減できる。例えば年間走行距離1万km、燃費10km/ℓの車がエコドライブで燃費を11km/ℓに高めると、2ℓペットボトルで年間約5万3千本分のCO₂がカットできるという。その基本は発進・巡航・減速・停止という4つの走行パターンに合わせた走行を行うことだ。日本自動車連盟(JAF)では、こうしたエコドライブ技術を指導する講習会を全国各地で開催しているほか、団体や企業のエコドライブ推進担当者を対象に、エコ・アドバイザー(指導者)の養成・認定なども行っている。

また横浜市では日産自動車と共同で、次世代の低炭素型交通の実現を目指す「ヨコハマモビリティプロジェクトゼロ」を展開。環境に優しいエコドライブや電気自動車の普及、渋滞改善につながる経路案内システムの実証試験などに取り組んでいる。



eCOレポート

12/9(木) 10(金) 11(土) エコプロ展で「smart move」をアピール!

環境に配慮した製品や技術、取り組みなどを集めたわが国最大級の展示会「第12回エコプロダクツ2010」が12月9、10、11の3日間、東京ビッグサイトで開催された。このイベントに環境省は「チャレンジ25」キャンペーンブースを出展。この中で「smart move」の展示を行ったほか、会場内に設置された環境コミュニケーションステージで「地球に優しい移動を考える」と題したプレゼンテーションを行った(写真右)。ス

テージには「smart move」の取り組みをいち早く実践している8つの企業・団体の担当者が登壇し、省エネ機能を高めた電車車両の導入や自転車走行環境の整備、カーシェアリングと公共交通との連携など、それぞれの取り組み成果をアピール。ゲストとして登場した鶴見辰吾さんも、「自転車名人」として知られる自身の体験を交えながら「我々一般市民も考え方1つでエコを実践できる。地球に優しい移動を考えよう」と訴えた。



smart move 賛同団体登録受付中!

あなたもsmart moveに参加して、公共交通機関の利用や自転車活用、自動車の利用方法の工夫など、移動にまつわるさまざまな地球温暖化防止の取り組みを実践してください。

協賛団体になると

- 1 ロゴマークの使用が可能になります。
- 2 取り組み情報をWeb等で発信します。

■協賛団体登録応募方法

賛同団体登録は、smart move 特設サイトからおこなえます。

<http://www.challenge25.go.jp/smartmove/>

smart move

検索

広告

企画・制作=日本経済新聞社クロスメディア営業局